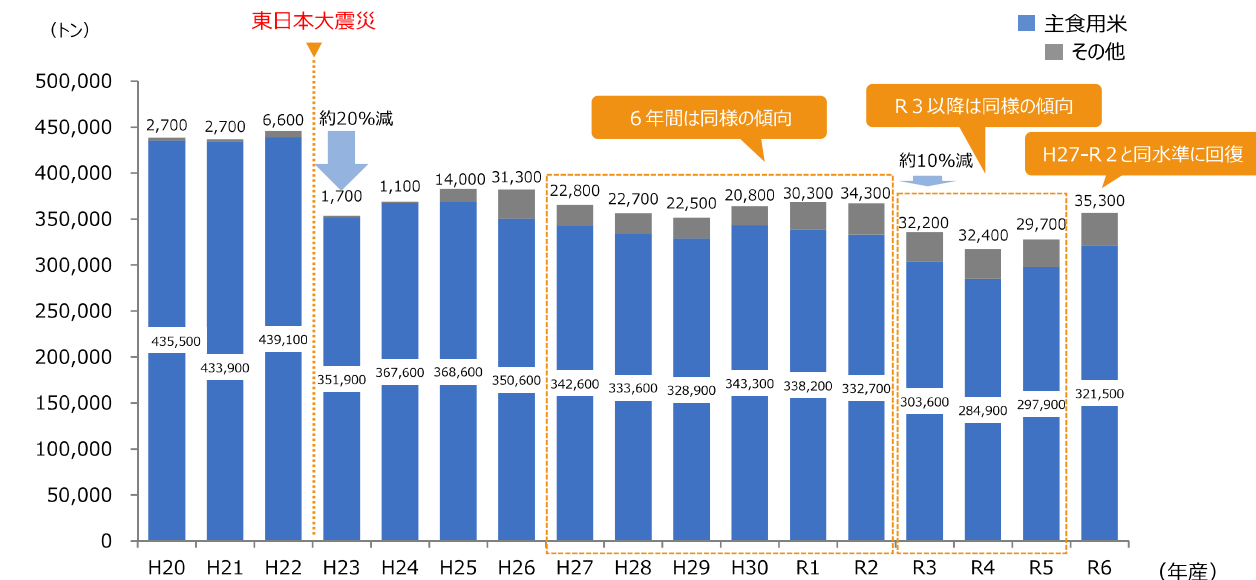


- 福島県産米の生産量は、令和3年産は飼料用米等への転換により約10%減少したが、令和6年産は令和2年産の約97%まで回復。
- 平成25年産以降、加工用米等の主食用米以外の割合が増加し、令和6年産では、生産量の約10%を占めた。

福島県産米の生産量推移



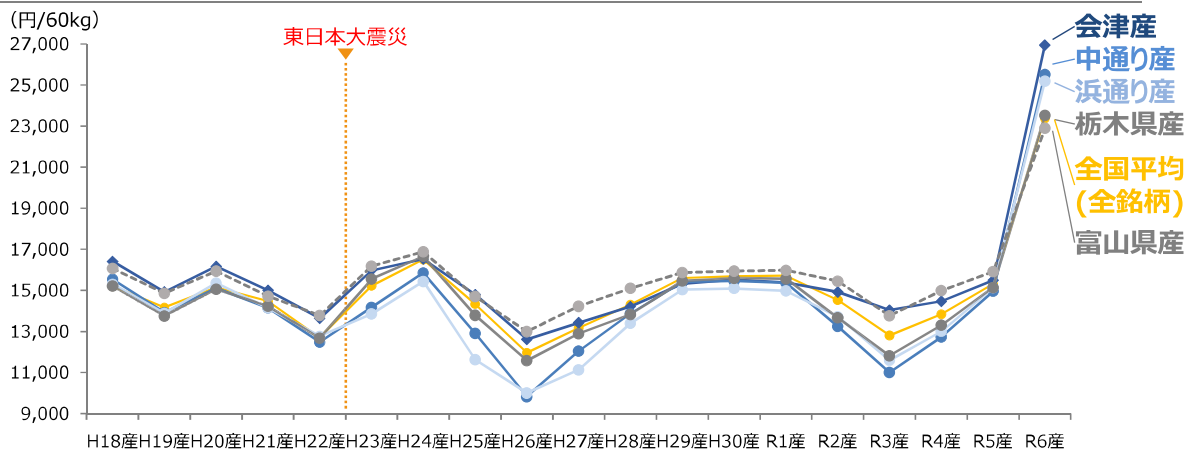
※水稻の収穫量の数値。生産量には「飼料用米」は含まない。
データ出所：農林水産省「作物統計」

31

福島県産米の相対取引価格の推移（概要調査）

- 会津産コシヒカリの相対取引価格は、震災後富山県産コシヒカリと価格ポジションが逆転して以降、概ね下位にいたが、令和6年産では富山県産を大幅に上回った。また、栃木県産コシヒカリより概ね上位に位置している。
- 中通り産・浜通り産コシヒカリは、震災以前は栃木県産コシヒカリの価格ポジションと概ね同じであったが、震災直後に大きく差が広がった。令和6年産においては、中通り産・浜通り産コシヒカリともに栃木県産・富山県産コシヒカリよりも上位に位置している。
- 事業者へのヒアリングによると、令和6年度は、米不足によって品種銘柄問わず米の需要があったことから、令和6年産においては、令和5年産と比べ、米全般の価格が大幅に上昇した。

会津・中通り・浜通り産コシヒカリと栃木県産・富山県産コシヒカリ、全国平均の相対取引価格推移

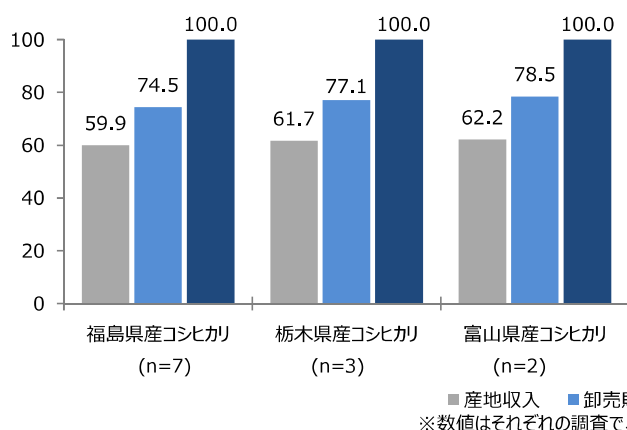


※出荷業者（年間玄米販売量5,000トン以上）と卸売業者などとの間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格を加重平均したもの。運賃（最寄りの大消費地への運賃。全農福島出荷分は平成27年産から運賃を含まない。）、包装代、消費税を含む価格。
※令和6年産は出回りから令和6年11月までの平均価格。
※相対取引価格が低い平成22年産や26年産の時期には、民間在庫の増加や、出荷業者の販売数量の増加が生じていた。

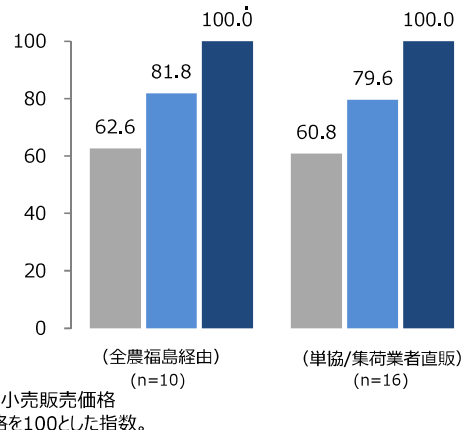
32

- 福島県産コシヒカリと、栃木県産コシヒカリや富山県産コシヒカリとの比較において、産地・卸売・小売の各流通段階における価格形成に明確な違いは見られなかった。
- 福島県産米の産地からの出荷ルート別の比較では、「②単協/集荷業者直販」は自社集荷して販売し、単価が低い事例も含まれていることから、相対的に産地収入がやや低い状況。
- 基本的に産地と卸売間では、年度始めに取引価格を設定し通年契約を結ぶため、多くの令和5年産米の卸売販売価格は令和5年に設定された。一方、小売販売価格は物価を踏まえ適宜設定されるため、令和6年の米価高騰を踏まえた小売販売価格の上昇を受け、相対的に産地収入がやや下がった。

米の価格形成 1（産地間比較）



米の価格形成 2（出荷ルート別比較）

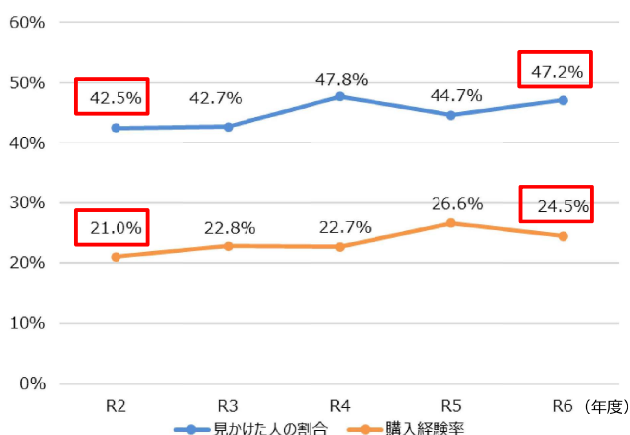


33

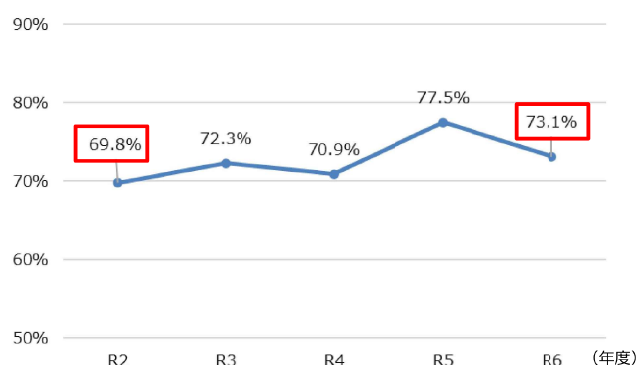
福島県産米を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産米を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ4.7%ポイント、3.5%ポイント上昇した。
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産米の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は3.3%ポイント上昇した。

福島県産米を見かけた人の割合、購入経験率



福島県産米を高く評価している人の割合



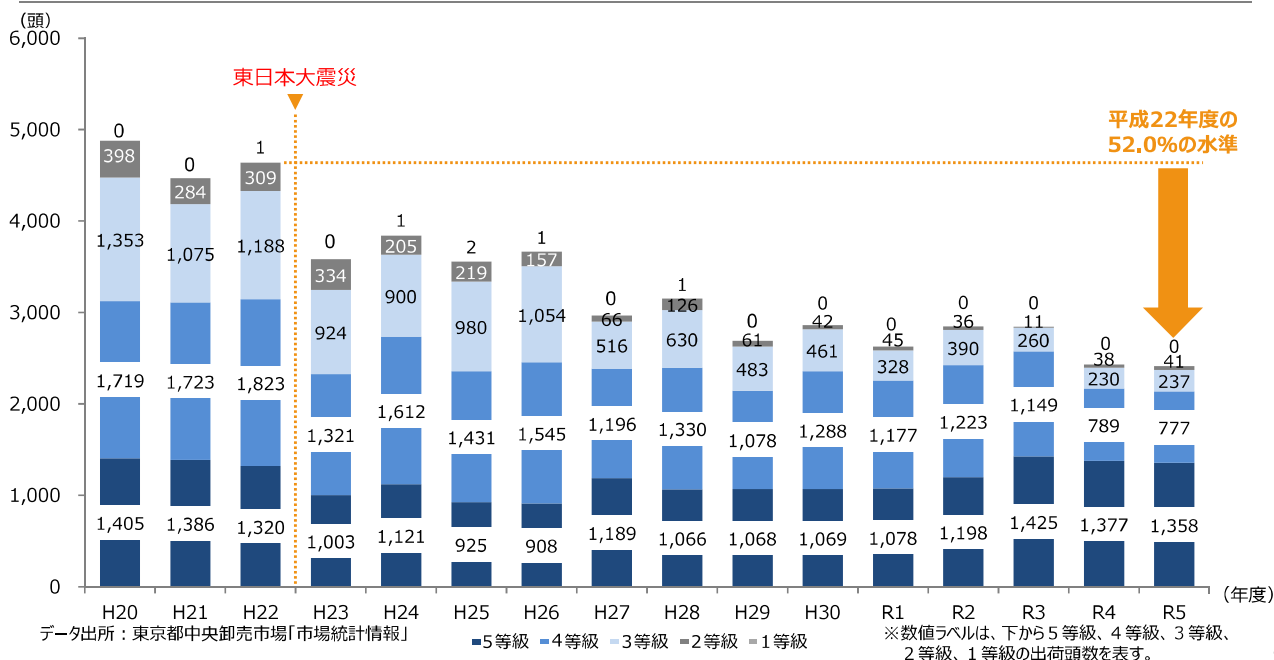
※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産米を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
 ※見かけた人の割合のnはR2:7,674、R3:8,143、R4:3,885、R5:3,012、R6:2,825。
 nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
 ※購入経験率＝1度でも購入したことがある人数／回答者数
 記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていった購入経験なしとなる。
 ※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

※福島県産米を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
 ※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
 ※nはR2:2,313、R3:2,508、R4:1,246、R5:1,065、R6:979。

34

- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移し、平成29年度以降は概ね横ばい傾向。
- 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は上昇傾向にあり、直近では90%前後と高い比率で推移。

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

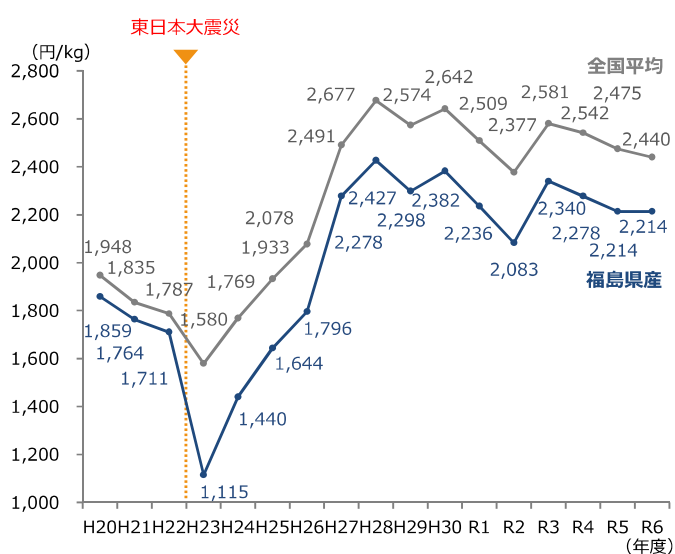


35

福島県産牛の枝肉の価格の概況（概要調査）

- 東京都中央卸売市場における福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均との差が拡大した。
- その後、平成27年度にかけて全国平均との価格差が縮まる動きが見られたものの、平成28年度以降は、-10%程度で推移している。

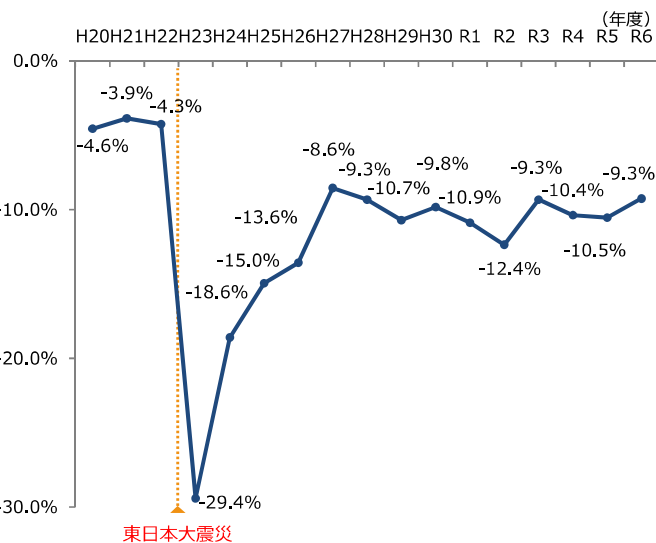
卸売市場平均価格推移（和牛全体）



※令和6年度は、令和6年12月までの実績を使用。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

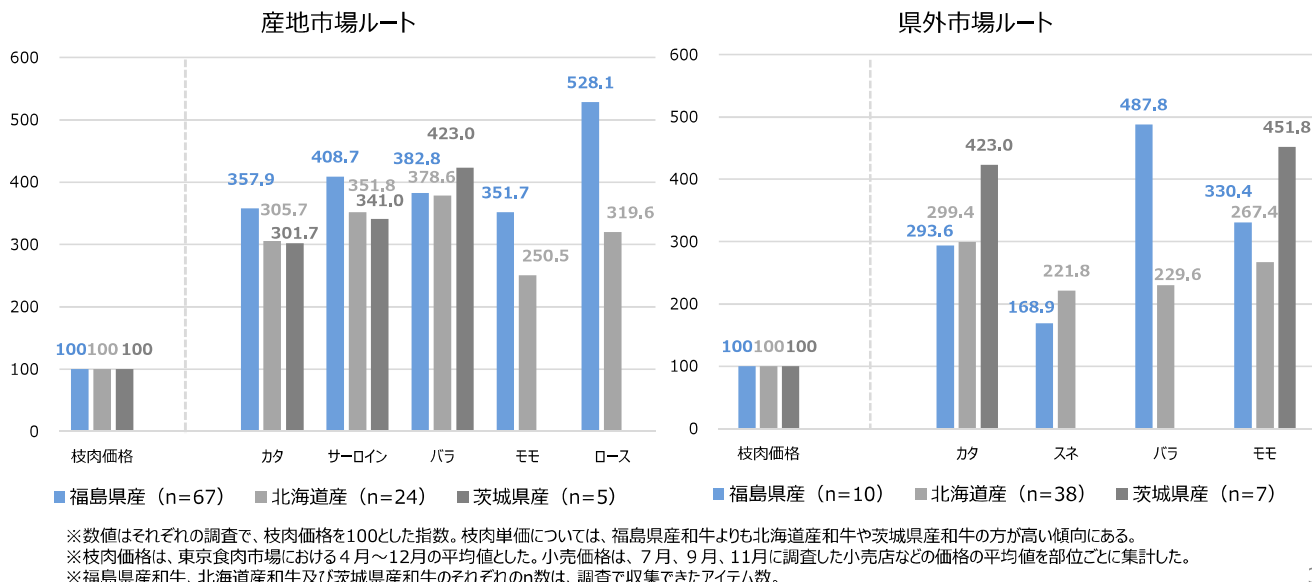
全国平均との価格差推移（和牛全体）



36

- 牛肉について、枝肉価格と小売価格を収集し、枝肉価格を100としたときの小売価格を、部位ごとに福島県産・北海道産・茨城県産で比較した。
- 産地市場ルートでは、福島県産は、概ね他産地より価格指数が高い傾向が見られた。
- 県外市場ルートでは、福島県産は、茨城県産より価格指数が低く、北海道産とは部位により価格指数の上下が大きく異なる傾向が見られた。

福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛の枝肉価格と小売価格の比較

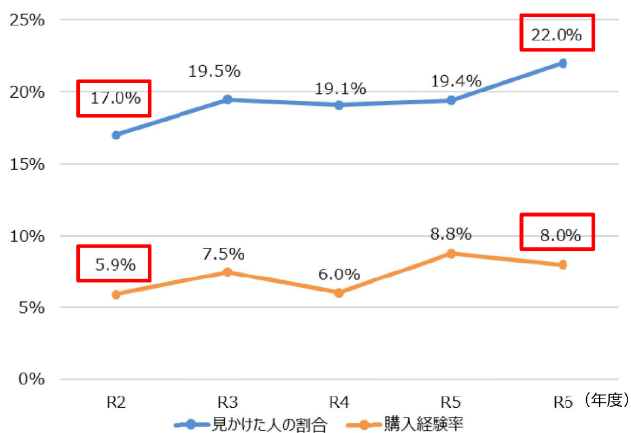


37

福島県産牛肉を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

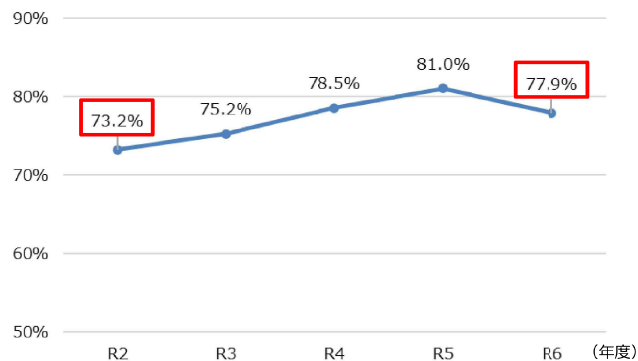
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産牛肉を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ5.0%ポイント、2.1%ポイント上昇した。
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産牛肉の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は4.7%ポイント上昇した。

福島県産牛肉を見かけた人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産牛肉を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
 ※見かけた人の割合のnはR2:7,241、R3:7,719、R4:3,643、R5:2,873、R6:2,608。
 nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
 ※購入経験率＝1度でも購入したことがある人数／回答者数
 記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購入経験なしとなる。
 ※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

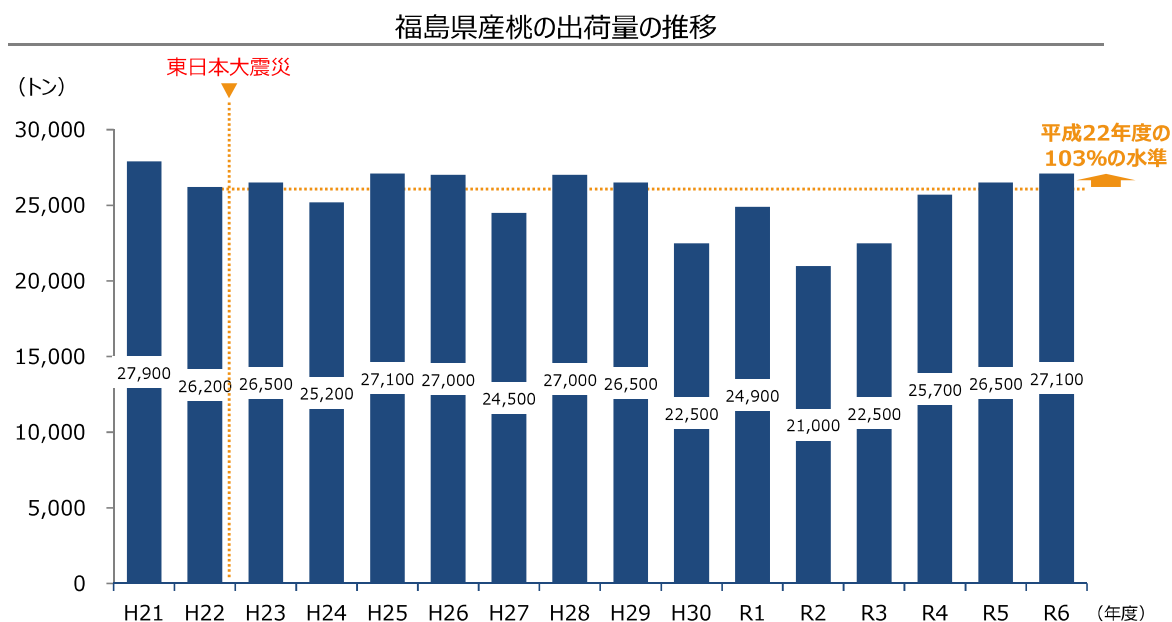
福島県産牛肉を高く評価している人の割合



※福島県産牛肉を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
 ※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
 ※nはR2:653、R3:822、R4:331、R5:353、R6:321。

38

- 福島県産桃の出荷量は震災以降、概ね横ばいに推移していた。令和2年度に出荷量が大きく減少したが、その後回復を続け、令和6年度における福島県産桃の出荷量は、平成22年度の103%となった。



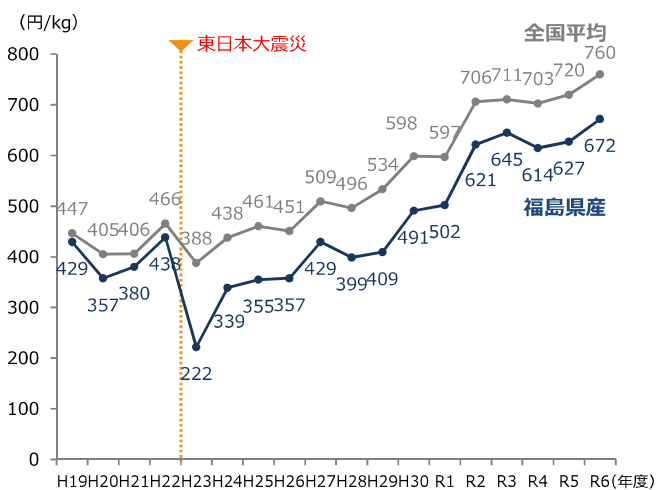
※令和2年度については、前年の台風による大雨の影響でももせん孔細菌病が発生したこと、7月の長雨、日照不足により果実の軟化が発生したこと等により、出荷量が減少した。
データ出所：農林水産省「果樹生産出荷統計」

39

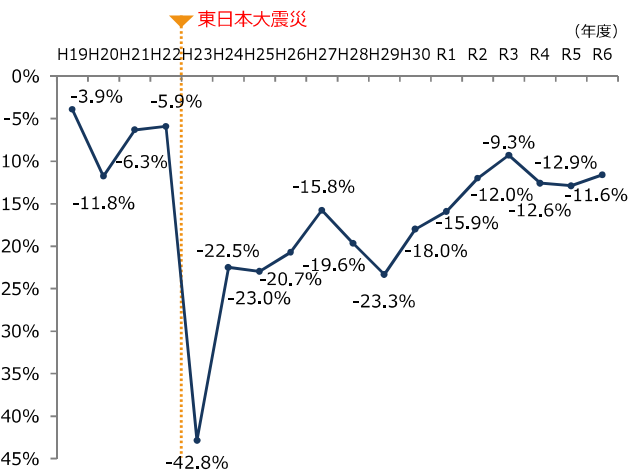
福島県産桃の価格の概況（概要調査）

- 東京都中央卸売市場における福島県産桃の平均単価は、震災直後に下落したが、その後は概ね上昇を続けている。震災後に大きくなった全国平均との価格差は縮小しているが、令和6年度は依然11.6%の差が生じている。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

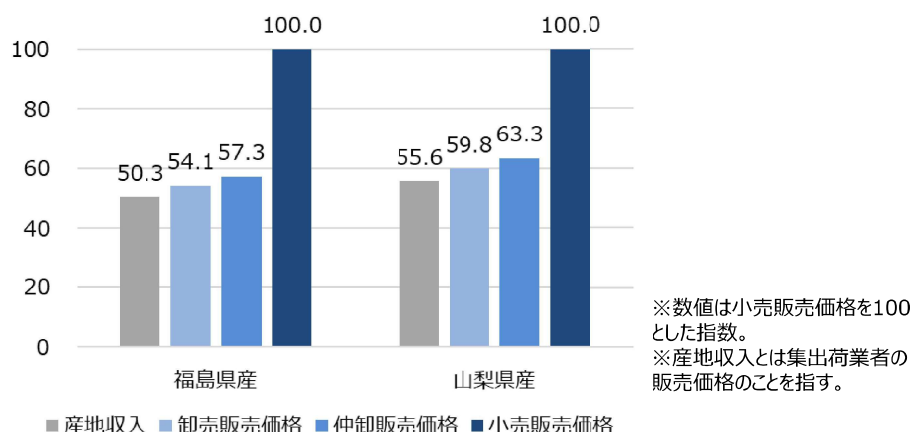
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」（7～9月の平均価格）

40

● 首都圏の小売業者が扱う桃の事例

- 福島県産と山梨県産の価格形成を比較すると、小売業者が仕入れ値が異なる両産地産に同等の販売価格を設定していたことで差が見られた。一方で、産地収入、卸売販売価格、仲卸販売価格における価格形成は、各段階で同等のマーゲインがのせられており、両者で違いは見られなかった。
- 小売業者によれば、山梨県産は出荷時期が他産地と比較して早く、桃全体の出荷量が少ない中で、各小売業者からの引き合いが強くなる為、福島県産と比較して多少高値がつく傾向にある。また、福島県産の出荷が始まる頃には、他産地の出荷も多く、桃全体の出荷量が多くなる為、価格が安定するとのこと。
- 果物全体として夏場の高温、台風の影響等で収穫量が減っており、昨年よりも桃の相場が上がっていたとのこと。

桃の価格形成事例

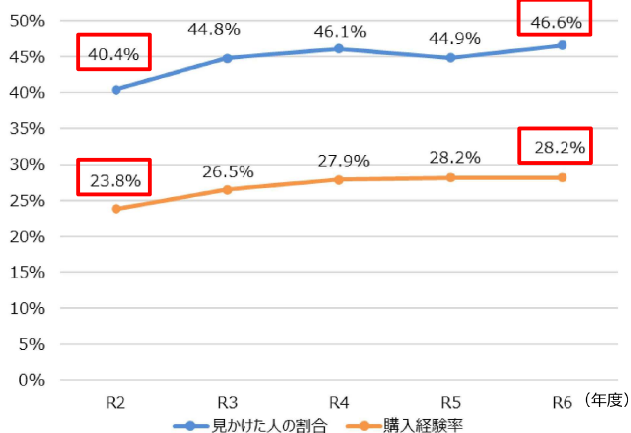


41

福島県産桃を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

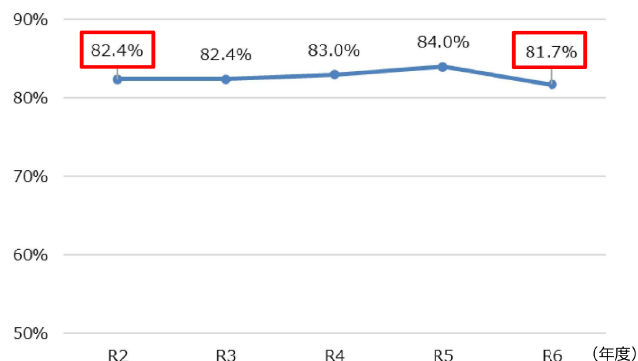
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産桃を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ6.2%ポイント、4.4%ポイント上昇した。
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産桃の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は0.7%ポイント下降した。

福島県産桃を見かけた人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産桃を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
※見かけた人の割合のnはR2:7,549、R3:8,125、R4:3,840、R5:2,963、R6:2,795。
nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
※購入経験率＝1度でも購入したことがある人数／回答者数
記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購入経験なしとなる。
※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

福島県産桃を高く評価している人の割合



※福島県産桃を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
※nはR2:2,623、R3:2,914、R4:1,536、R5:1,129、R6:1,126。

42